

令和元年12月27日発行

ISSN 0918-9173

# 福岡県保健環境研究所年報

## 第46号

平成30年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute  
of Health and Environmental Sciences  
No.46 2018*



福岡県保健環境研究所



## はじめに

地球温暖化の影響か、近年、雨の降り方が変化してきているように感じられる方は少なくないと思います。平成 30 年度も前年度に引き続き、西日本を中心に豪雨に見舞われ、福岡県でも久留米市の広い範囲で浸水するなど、県内各地で河川の氾濫や土砂崩れによる被害が相次ぎました。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、当所における平成 30 年度の主な出来事や取り組みについて御紹介します。

保健分野では、春に医療機関の接触者を中心とした麻しんのアウトブレイクが発生しました。また、秋には関東地方を中心とした風しんの全国的な流行があり、福岡県内でも多くの患者が確認されました。さらに、全国がん登録が開始された診断年平成 28 年の提供情報が確定し、がん対策への活用へ向けたデータの提供がスタートしました。

食中毒関連では、県内でヒスタミン及びフグ毒を原因物質とする健康被害が発生したため、原因究明のための検査を実施しました。また、本年度はカネミ油症の発生から 50 年となる節目の年にあたります。当所では油症検診事業として 13 年度から血液中のダイオキシン類測定を実施しており、18 年間の測定実績は累計で 5,000 例に達しました。

環境分野では、6 年ぶりに大気汚染常時監視システムを更新し、大気シミュレーションのためのワークステーションを導入しました。また、水銀に関する水俣条約の発効に伴って大気汚染防止法が改正されたことにより、県内水銀発生施設の立入調査を開始しました。今後 4 年かけて、県内全ての水銀発生施設を調査する予定です。さらに、ドローンを使ってため池に繁茂しているアオコの発生状況を定量化し、効果的な対策へとつなげました。

国際協力関連では、29 年度に引き続き、中国大気環境改善のための都市間連携事業として、福岡県が進めているモデル事業の評価のため職員を江蘇省に派遣しました。また、日韓海峡沿岸県市道環境技術交流事業として、「地下水の成分等調査と日韓比較」を実施しました。

所内に目を向けますと、29 年度の入庁 2 年目の職員を対象とした「所内インターンシップ」を、30 年度は 40 歳未満の職員を対象として実施しました。このような所内横断的な試みは、所の活性化に役立つものと考えています。

保健環境研究所を取り巻く環境には厳しいものがありますが、私たちが取り組まないといけない課題は山積しています。なお一層の御指導、御鞭撻をよろしくお願いします。

令和元年 12 月

福岡県保健環境研究所長 香月 進